

2017 年度 学術交流支援資金報告書
海外の大学等との共同学術活動支援
大学院アカデミック・プロジェクト (AP)

科目名: 外国語教育デザイン Language Learning & Teaching Design

研究課題: 言語横断的な外国語教育デザインの構築および実践 (1)

研究総額: 350,000 円

研究代表者氏名: 藁谷 郁美

所属/職名: 総合政策学部兼政策・メディア研究科/教授

1. 研究概要

本研究プロジェクトでは、アカデミックプロジェクト「外国語教育デザイン Language Learning & Teaching Design」の立ち上げに伴う外国語教育の環境構築（教材開発）、システム調査（人材育成）、外国語教育に関連する隣接分野との連動を目指した共同研究ネットワークの開拓と拡大を進める。

従来のやり方で遂行してきた共同学術交流のあり方には既に多くの問題が累積する。背景には変容する交流の多様化と枠組みの硬直化がある。特に大学院教育に重点を置いた学術・研究交流は、学部生レベルにおける交流実績に比べて、多分野横断型の人材の受入・派遣に対応し難い状況があると考えられる。2017 年度に新たな研究・教育の「場」として立ち上げた本アカデミック・プロジェクトは、特に外国語教育研究をフィールドにして今後の拠点の拡大および多様化を目指す。

2. 研究組織

2.1. 研究代表者

藁谷郁美 総合政策学部 兼 政策・メディア研究科 教授

本研究統括（研究代表者）ヨーロッパ・ドイツ語圏担当

2.2. 共同研究者

2.2.1. 教員

國枝 孝弘 総合政策学部 兼 政策・メディア研究科 教授

国際共同研究 ヨーロッパ・フランス語圏担当

中浜 優子 環境情報学部 兼 政策・メディア研究科 教授

国際共同研究 英語圏全域 および日本語研究担当
トレース・ジョナサン環境情報学部専任講師

国際共同研究 ヨーロッパ・オセアニア等英語圏担当
西川 葉澄 総合政策学部 専任講師

国際共同研究 ヨーロッパ・フランス語圏担当

2.2.2. 大学院生

佐藤 友紀子 政策・メディア研究科博士課程 2 年

ドイツ語圏交流ネットワーク作成

ブリュックナー, ステファン 政策・メディア研究科博士課程 1 年

ドイツ語圏交流ネットワーク作成

藤 谷 悠 政策・メディア研究科修士課程 2 年

フランス語圏交流ネットワーク作成

松木 瑤子 政策・メディア研究科修士課程 1 年

フランス語圏交流ネットワーク作成

有馬 一起 政策・メディア研究科修士課程 1 年

日本語教育ネットワーク作成

宮村 将央 政策・メディア研究科修士課程 1 年

日本語教育ネットワーク作成

3. 本研究の目的と背景

本アカデミックプロジェクト「外国語教育デザイン Language Learning & Teaching Design」は 2017 年度春学期から立ち上げをおこない、運用を開始した新規プロジェクト科目である。教員は多言語分野において外国語教育の環境構築および教員養成に重点を置く点で共通項を有し、SFC 政策・メディア研究科および学部全体の外国語教育研究の知見と実践（運用）を活動の基盤とする。我々を取り巻く物理空間・仮想空間がグローバル化する中で、多言語・多文化社会（コミュニティ）の理解、他者とのコミュニケーション能力は、いっそう重要視される。多様な言語を切り口にした外国語教育は、この社会の様々な局面・現場でリーダーシップを持って課題を解決できる人材育成を目指す。同時に、実践面だけではなく、定量的実験研究・定性的実践研究等を遂行するための外国語教育研究の基本を指南する。

外国語教育研究の分野における学習教材開発、教授法考察、システム開発、

評価手法開発等、情報領域の革新に伴う変化はきわめて大きく、教育工学や認知科学の領域に横断的な実証的研究が増大傾向にある。しかしながら、学習とは学習者が社会的な状況の中で実体験を通して自らの知識を再構築していくものであるとする構成主義のコンセプトは、インターネットを利用した授業実践においてはすでに多くの試みが行われているものの、教室環境を離れた日常の文脈における状況依存型の学習支援環境という点では未だ実現化しておらず、そこで予測しうる学習者の言語運用能力と新たな学習環境との関連性は未だ実証されていない。また、外国語教育がおこなわれるフォーマルラーニングとしての実空間の整備およびフォーマルラーニングに準拠したサイバー空間の多様化は自律学習環境の成長型構築モデルとして運用されている。従って学習者のネットワーク上の言語産出プロセスが他の外国語学習者の「学び」に資するものとなるような ICT 学習環境の構築は、困難な状況であった。背景には学習者が日常的におこなうサイバー空間における外国語を介したコミュニケーション行動が、いわゆる学習環境の枠内で発生する現象としては把握が困難であり、データとして可視化することが試みられていなかったことが要因にある。本研究は、体系的な構成要素を成す外国語学習環境モデルの構築・運用・評価を目指す。その際、本研究推進のための前提として、外国語教育を共通とする海外教育機関との多様なネットワークの構築・拡大が重要となる。

2. 今年度までの取り組みおよび活動範囲

2017 年度の組み内容は、1) 大学院生の研究発表を中心に進めた授業としての研究会合、2) オープンリサーチフォーラム (ORF 2017)における展示およびポスター発表、3) 各研究室・各言語教育における教育・研究活動、の3項目に分けられる。

1) については、研究発表の場を定期的に持ち(隔週金曜日3限・4限、ラムダ207共同研究室)、博士および修士過程在籍中の大学院生の研究発表を中心に、本APの教員と共に議論する場を継続開講してきた。ここでは、各学生の研究内容に関して多分野横断的な視点から議論される機会を得たことは重要である。同時に、研究内容のみならず、修士および博士学位取得に至るまでの実質的プロセスを相互に確認できる場であることも、本APプロジェクトの担う重要な役割であると考えられる。2) については、藁谷研究室の出展ブース内にて大学院生による展示およびポスター発表の一部に本APプロジェクトの活動内容を盛り

込み、対外的な広報をおこなうと共に他の研究室との交流を持った。3) については、各研究室単位での教育・学术交流の活動としては、弘前大学との「複言語・複文化プロジェクト」の推進や共同学習による相互のワークショップ開催（國枝研究室）、シンガポールの南洋工科大の国立教育学院の **Dr. Ruth Wong** 氏との、英語教員の資質についてディスカッション（中浜研究室）が挙げられる。さらにはドイツ州立ケルン大学の **Prof. Monika Unkel** 氏との共同研究では、同氏が責任者をつとめるケルン大学日本語教員養成コースとの言語習得分野における実証実験を含む研究活動をおこなうことが話し合われた。また、ドイツ州立ライプツィヒ大学、アーヘン工科大学、ボン大学、ベルリン自由大学それぞれの外国語教育研究に関わる研究機関との教員レベルでの交流を開始しており、今後の研究および教育への実践的活動につなげることを目指す。なお、各研究室関連の 2017 年度における個別活動実績は、本報告書「4. 関連する主要な学術的成果(抜粋)」にまとめて記す。



本 AP 活動の様子

<https://sfcmlgd.wordpress.com/2017>

3. 今後の展望と本研究の位置付け

本アカデミックプロジェクトは、従来のプロジェクト科目で活動をおこなってきた枠組みを超越し、外国語教育のあらたなヴィジョンを提示することを共通の目的に結成された研究グループである。学生との協働研究活動のみならず、広く社会人の「学び返し」の場としても機能することを目指し、将来的にはプロフェッショナルコース(PC)を並行して運用する教育体系を計画している。具体的には、卒業生の学び返し、大学院での 教職免許更新プロセス、現職の外国語担当教員を対象にした IT 学習環境のデザイン設計、多言語教育の現場体験、中等部・高等部における外国語教育の人材育成、日本語教育人材育成、在外公館や在外派遣人材の育成、行政や民間企業の言語人材育成、異文化間教育、ツーリズム分野での人材育成、大学等の高等研究機関における研究者としての人材育成な

どが可能性として挙げられる。また、提携先の大学や教育研究機関への学生派遣・受け入れを通して、インターンシップ、フィールドワークの導入、遠隔システムを用いた共同授業の運営、タンデムシステムを通じた研究支援が活動内容として計画内容に挙げられている。言語活動に関わる横断的分野を射程に、教育・行政・経営・メディア等への人材育成を目指すうえで、個別の研究活動のみならず、協働学習の場を通してこそ、気づきを伴う AP 活動ができるものとする。

4. 関連する主要な学術的成果(抜粋)

4-1 教育関連活動

・國枝孝弘「複言語・複文化プロジェクト」ワークショップ 2017 年 9 月 30 日実施、於：青森県弘前市

・國枝孝弘「弘前大学との共同学習によるワークショップ」2017 年 11 月 25 日実施

・中浜優子 シンガポールの南洋工科大の国立教育学院の Dr. Ruth Wong との英語教員の資質についてディスカッション 2017 年 11 月実施

・中浜優子 シンガポールにおける小学校の英語授業の参観およびシンガポールの英語初等教育の教員養成に関する情報収集 2017 年 11 月実施

・藁谷郁美 ドイツ州立ケルン大学日本語教員養成コース・インターンシップとしての授業の参与観察 2017 年 10 月～11 月実施

・藁谷郁美 ドイツ州立ライプツィヒ大学日本学研究所訪問および研究者との交流 2018 年 2 月実施

4-2 研究発表・論文・著書等

・國枝孝弘「高校における第二外国語の問題と可能性」(第 32 回関西フランス語教育研究会) 3 月 27 日 於：上田安子服飾専門学校(大阪)

・西川葉澄(共著) « Une diversité de langues dans la classe de français », 第 30 回 獨協大学フランス語教授法研究会報告、2017 年 3 月 1 日発行 pp. 15-17.

・北村亜矢子、西川葉澄「上智大学言語教育研究センターにおける初習 5 言語による Language Exchange の試み～フランス語ケースの分析～」(第 32 回関西フランス語教育研究会) 3 月 27 日 於：上田安子服飾専門学校(大阪)

・Trace, J., Brown, J. D., Rodriguez, J. (2017). Databank on Stakeholder Views of Technology in Language Learning Tools. Second Language Studies,

36(1), 53-73.

• Trace, J. (submitted). Clozing the gap. How far do cloze items actually measure?.

• Trace, J., & Brown, J. D. (2018). The characteristics of connected-speech dictation items in second language listening assessment. Paper to be presented at the American Association of Applied Linguistics (AAAL) conference, Chicago, Illinois, March, 2018.

• Trace, J. (2018). Tabletop board gaming, tasks, and affordances for learning. Poster to be presented at the American Association of Applied Linguistics (AAAL) conference, Chicago, Illinois, March, 2018.

• 西川葉澄（共著）「上智大学言語教育研究センターにおける初習 5 言語による Language Exchange の試み～フランス語ケースの分析～」、Bulletin « Rencontres » 第 31 号、2017 年 7 月、pp. 67-71.

• 中浜優子（共編著）「日本語教育への道しるべ 第 4 巻 ことばのみかたを知る」 2017 凡人社

• I. Waragai, Y. Kiyoki, S. Kurabayashi, T. Ohta, M. Raindl, Y. Sato & S. Brückner. "Construction and Evaluation of an Integrated Formal/Informal Learning Environment for Foreign Language Learning Across Real and Virtual Spaces". The 25th EUROCALL : the European Association for Computer Assisted Language Learning, Southampton, UK, Aug 2017. "EUROCALL 2017" edited by Kate Borthwick, Linda Bradley, and Sylvie Thouësny, pp. 719-731.

• Y. Sato, I. Rachmawan, S. Brückner, I. Waragai, Y. Kiyoki. "Combining Formal and Informal Learning: The Use of an Application to Enhance Information Gathering and Sharing Competence in a Foreign Language". The 25th EUROCALL : the European Association for Computer Assisted Language Learning, Southampton, UK, Aug 2017. "EUROCALL 2017" edited by Kate Borthwick, Linda Bradley, and Sylvie Thouësny, pp. 616-629.

• S. Brückner, Y. Sato, I. Waragai, S. Kurabayashi. "The Handling of Personal Information in Mobile Games". 14th International Conference on Advances in Computer Entertainment Technology, London, UK Dec 2017.

• Ikumi Waragai, Marco Raindl, Tatsuya Ohta: "Prima Plus 2 (A2), Deutsch für junge Leute in Japan" (プリマ・プラス) Asahi Verlag & Cornelsen Verlag,

Tokio 2017.